岡山大学

PRESS RELEASE

平成２２年　６月１７日

＜被験者への苦痛が少ない内視鏡（胃カメラ）挿入法の開発，検討＞

＜概要＞　・消化器内視鏡検査（胃カメラ）は早期胃癌の発見などに非常に有用な検査ですが，被験者に与える苦痛が大きいのが欠点でした。その欠点を補う方法として経鼻内視鏡などが試みられていますが，様々な理由で十分普及していません。岡山大学病院では特殊なマウスピースを使った極細経内視鏡の経口的挿入法の有用性を検討し先日学会で発表したところ，多くの医療機関より問い合わせが殺到しています。

＜本　文＞

- 消化器内視鏡検査（胃カメラ）は早期胃癌の発見などに非常に有用ですが，被験者の苦痛が強いため，まだまだ敬遠される方が多く，その受診率の向上が課題です。
- 苦痛を軽減する試みとして，鼻から細い内視鏡を挿入する検査（経鼻内視鏡）が近年普及しつつありますが，麻酔に時間がかかる，生理的な挿入経路でない，画像が悪いなどの理由から採用していない施設も多くあります。
- 岡山大学病院ではトップ社が考案した特殊なマウスピースを用いて，経口的に細い内視鏡を挿入する，新しい方法の有用性を検討してきました。
- 先日その有用性を米国消化器病学会週間及び日本消化器内視鏡学会で報告したところ，経鼻と経口のよいところを併せ持った方法と評価が高く，採用したいと希望する施設から多くの問い合わせをいただいています。
- また、現在岡山大学病院光学医療診療部とトップ社が共同で、より多くの内視鏡機種に対応できる新型も開発中です。
- 一般の患者さん達にも，苦痛の少ない内視鏡検査の実現は朗報と考え，その詳細をご紹介したいと思います。

＜お問い合わせ＞
岡山大学病院　光学医療診療部
・　（河原祥朗）
（電話番号）086-235-7670
（FAX番号）同上